

杉並区立杉並第五小学校

—チャレンジする子の育成をめざして—

教育目標

- すなおに
- ◎心ゆたかに
- たくましく

児童の実態

- ・自身の健康な生活への課題を持ち、それを解決していく見通しが持てる児童が増えた
- ・全てのものにかかわることの大切さを理解し、自分自身の生活に生かそうという子も増え始めている
- ・友だち同士のかかわりや発表の力が高まってきている

学習指導要領

ゆとりの中で、特色ある教育を展開し、子どもたちに「生きる力」をはぐくむ

チャレンジする子の育成をめざして
～かかわりを重視した生活科・杉五タイムの学習を通して～

めざす児童像

- 自ら学ぶ意欲をもち、課題に粘り強く取り組もうとする子
- 友だちのよさを認め、協力して学習を進める子
- 体験的な学習を通して、学んだことを自らの生活に生かそうとする子

そのために

仲良く
協力
大切
進んで
思いやり

心と体の健康づくり

汗を出す
やり通す
健康・安全
体力の向上

- 健康タイム
- 各教科での学習
- 道徳の学習
- 特別活動
- 各種行事

生活科・杉五タイム

☆人とのかかわり

- ・同学年・異学年・地域の方々
- ・保護者・教職員
- ・幼稚園保育園児・中学生
- ・ゲストティーチャー

☆環境・自然・地域・物などとのかかわり

心と体の一体化

心

体

- 教科学習
- 道徳の時間
- 学級活動
- 健康タイム
- 休み時間
- 放課後
- 給食時の指導
- 各種スポーツ大会
- 地区児童会など PTA 中心の活動
- 体育科の学習

- スポーツテスト
- 生活サーカディアンリズム
- 定期健康診断

杉五タイム
体・健康に関する単元

研究の中心

かかわりを通した多様な学習活動

みつける

- ①観察・見学
～観察する、見学する～
草花、木、動物、道路、人、
商店街、公共施設など
- ②調査・探検
～調べる、探す、探検する～
現地、店、家の人、地域の人、
働く人、専門家、水質、町探検など
- ③収集・採集・採取
～集める、採集・採取する、
撮影・録音する～
資料、原材料、魚・虫・木の実、
情景・音、人、施設など

- ⑦言葉による表現
～話す、発言する、発表する、
話し合うなど～
発表、討論会、ディベートなど
- ⑧文章による表現
～書く～
手紙、ファックス、レポート、カード
など
- ⑨絵や図による表現
～描く、構成する～
新聞、地図、絵本、パンフレット、
紙芝居など
- ⑩音楽による表現
～歌う、演奏、演じる～
歌、楽器、組体操など

あらわす

つくる

- ④創造・製作・調理
～つくる、飾る、料理する～
和紙、おもちゃ、堆肥、ホームページ、
料理、輪飾りなど
- ⑤模倣・劇化
～まねる、演じる、劇化する～
動作や劇など
- ⑥飼育・栽培
～飼う、育てる～
小動物、稲、野菜、いも、花、
ミニトマトなど

- ⑪遊び・交流
～遊ぶ、触れる、交流する～
昔遊び、たてわり遊び、
お年寄りや障害者との交流
- ⑫鑑賞・味わい
～鑑賞する、食べる～
音楽、美術、米、野菜
↑ 十分な配慮
- ⑬情報通信活動
～インターネットによる受信・発信～
- ⑭操作
～並べる、つくりかえる、操作する～
カード、パソコン、デジカメ、ビデオ

ふれあう

杉並第五小学校の
総合的な学習の時間

「お米博士になろう」

5年生

単元のねらい

- 私たちの生活を支える“米”に興味をもつ
- 米について様々な観点から調べ、実際に米作りを体験し、調理する
- それらを、表現を工夫して他の人に伝える
- 私たちの食生活の問題点を考えたうえで、“米”の素晴らしさを再確認し今後の生活に生かす

学習過程

Part 1

出会う

- 土づくりをして、種もみをまく
- 田植えをする
- お米を作っている人たちの話を聞く

調べる

- 各自、お米について調べたいことを考える
- 課題別グループをつくる
- 課題別グループごとに、学習計画を立てる
- 調べたことをノートにまとめる

伝える

- リハーサル
- 修正をする
- 発表会
- これまでのまとめをする

育てる

- 水やり
- 中干し
- 草取り
- 虫除け
- からす・すすめ対策
- 稲刈り
- 乾燥
- 脱穀
- もみすり
- 精米



米づくりの専門家を
ゲストティーチャーとして招き
お話を聞く

本物を知っている
ゲストティーチャーの存在は
大きい



無事に育っている稲
育てることの苦勞をみんな
味わうことができた



ゲストティーチャーの田んぼに
行って稲刈り体験
保護者有志が参加者を募り
この体験が実現した

米づくりの学習は長期にわたる。しかも生き物である『稲』を枯らさない努力が必要となる。特に夏の水遣りは大仕事であった。

テーマ設定の理由

食べることは生きていくための基本である。また“米”は2000年以上にわたり日本人の命の源・文化の源となってきた。“米”を調べ、育て、食べる活動を通して、“米”の素晴らしさを再確認させたい。また本単元は、職の専門家・地域の商店・保護者の協力を得て、体験的な学習の場を多く設定することができる。多様な学習活動によって「狭いながらも深い」学習構成としてじっくり取り組ませたい。さらにグループ発表も、コンピューター・実演・試食など、多様な方法が工夫でき、発表を聞きに来た人に直接かかわり、伝える工夫も大切にしたい。

Part 2

出会う

○お米を炊いて食べる



調理法の指導は保護者のサポートなしではできなかった
各グループに“核”となる保護者を配置し、その人を中心に取りまとめをお願いしたため、多くの保護者の協力が得られた

調べる

○お米を使った料理や加工食品に、どんなものがあるかを調べる
○各自、どんな料理や加工食品について詳しく調べたいかを考える
○課題別グループをつくる
○課題別グループごとに学習計画を立てる
○調べたことをノートにまとめる
○今までの取り組みから、米に関する食生活について、自分の考えをまとめる



討論会では自分の考えをもち、伝えるだけでなく、友だちの意見を聞きながら“米”に対する考えを深める

伝える

①発表会（試食）コーナー
○グループごとに発表する
②討論会コーナー
○自分の考えをもとに討論会をする
—テーマ—
◆輸入もあり？それとも絶対国産？
◆ご飯が中心？それとも何でもいい？
◆お米と小麦どちらがすぐれているか？

まとめる

○寄せられた他の児童の感想や学習ノート、討論会をもとに、今までの取り組みを振り返る

地域や専門家と、また今回は何より保護者の理解と協力が大きな応援団となった。協力が得られやすい地域性に助けられており、それによって多様な学習活動が実現できた。

杉並第五小学校の
総合的な学習の時間

～お店の人と仲良くなろう～
まねき〇〇プロジェクト
3年生

単元のねらい

- 近所の店に関心を持ち交流を図る
- 友だちと協力して商店を取材したり、商店に贈るマスコットを作ったりする
- 近所で生活している人々とのふれあいの中で親しみや思いやりの気持ちをもつ

学習過程

出会う

- 好きな店を選びグループを作る
- グループ内の役割を決める
- インタビューの内容を決める
- ラフスケッチをする

知る・親しむ

- 店の人にインタビューしたり、店の観察をする
- 店の人と仲良くする
- 店の人がどんなマスコットを希望しているかを聞く



インタビューの内容を考える



お店屋さんでマスコットの希望を聞く



子どもたちは昨年地域めぐり学習をしており、その経験を生かすことができた

この単元は、担任と専科教員とが協力し合って構成した。両者でどのように連携をとって進めていくのかがポイントとなった。幾度も話し合い、調整を進めていった。

テーマ設定の理由

住宅街にある商店の多くは、古くから町に根付き、地域に住む人々とのふれあいを大切にしながら生業を営んでいた。町の行事には欠かせない存在でもあり、子どもたちの成長をあたたかい目で見守ってくれた。しかし駅前の大型店舗で買い物を済ませる生活スタイルができあがった現在、その意味を失いつつある。子どもたちにとっては近所でありながら買い物に行ったことのない店も多い。これらの店や地域に住む人たちの、目に見えない思いやりやふれあいに気付かせ、子どもたちに同じ町に住む意識を持たせたいと考えた。

作る

総合的な学習の時間にて

- 協力してアイデアを出し合う
- 協力してアイデアをまとめる
- 店の人の願いを表せるように工夫する

図工にて

- 形に合わせて芯材の組み合わせ方を考える
- 紙粘土でいろいろな色を作りながらマスコットを仕上げる
- できた形に飾りを付ける

贈る

- 店の人にメッセージを書く
- 作ったマスコットを店に贈る
- 店に関心を持ち、これからの生活に生かす



心を込めて作ったマスコットをお店屋さんへ贈る



お店屋さんの願いがかなえられるようなマスコットを作るため、アイデアを出し合う

地域の商店会は結果的に好意的に協力してくれた。しかしどの商店に依頼していくかを決定し、交渉を進め、打合せをしていくには時間を要した。